

山寺ふるさと便り

=第30号=

# 宝珠のしずく

題字 後藤仁田(性相院)

発行所 やまでら館

〒999-3301 山形市山寺517-1  
TEL 023-695-2001 FAX 023-695-2164

発行者 山寺地区振興会  
編集 宝珠のしずく編集委員会

**継承**

**=やまがた未来賞 受賞=**

## 子ども伝統芸能「山寺物語」と「磐司太鼓」



令和7年10月31日、日本教育公務員弘済会山形支部様は、山寺小中学校の児童・生徒が9年間「山寺物語・磐司太鼓」の演舞・演奏の継続活動に取組み、かつ60有余年に亘って継続してきたことを讃え、第19回教育文化活動奨励事業「やまがた未来賞(副賞付)」を授与して下さいました。

保護者の方々、思い起こしませんか。「息子に劇の衣装をつくってやったけな」、「野ウサギのお面をつけ逃げまわったけな」小道具、衣装づくりも、協力した事。中学生の頃は「放課後、磐司太鼓のリズム合わせ練習を遅くまでやったけなあ。」等々。

学校文集に全校児童参加の劇「山寺物語」の初演は、昭和44年11月23日、秋晴れの温かい陽ざしのもと旧校舍グラウンドで二百名有余の全児童総出で演じられたと記録されています。また、劇「山寺物語」には、さらに驚く歴史があります。昭和39年の4年2組の児童は創立記念日の学芸会で自作シナリオ劇「山寺物語」を演じたことが学校文集に記録されています。

この度の受賞を機会に、「山寺物語の演舞、磐司太鼓の演奏」をさらに「珠玉の大樹」に育てる知恵を、児童・生徒の皆さん、地区の皆さんと話し合ってみたいなあ。



裁判所書記官  
正装写真

### ☆ 山寺の名勝

この村には、名勝の地がことに多い。土地の人は、山寺の景色を全て見るのには七日かかると云っている。まず千手院。ここには観音堂がある。これは最上札所二番である。御詠歌に「み仏のちかいは重き立石寺、ねがふ心はかろくありとも」と詠まれている。この観音より少し登ると垂水不動という処がある。実に大きな岩山で、その岩には夥しい数の穴があり蜂の巣のようである。どうしてこのような穴が穿たれたのか。自然の穴であるのだろうか。滝とはいうけど名許である。その処に不動尊を祀られている。誰云うとなく、山寺村の始まりは、千手院である。だから本院と名づけられた処があるのだと。より山に入って三里許の処に面白権現がある。その道の途中に雷瀑という名の滝が現れる。その権現は靈驗著しいので、日照りで雨が何日も降らない時は方々からこの山に雨乞い参拝に登る人が引きも切らず、日々絶えることないほどである。

### ☆ 奥山寺の名勝

馬形より二里半許の処に、石橋という処がある。これは自然の石橋で長さ二十間もある。その下より流れ出る水は、滝のようにながれて大麥おもむきがある。ここに来る道の途中に鸚鵡石という岩がある。深い洞穴が穿っている。深い洞穴が穿って声を出すと、その響きが翌返ってくる。空模様が変わつてくると猿が群がって、この洞穴に入るといわれている。馬形より二里許の処に、七滝不動尊が祀られている。今年の七月廿一日、山分着を着て、妻と一緒に七瀧不動尊を見にいった。その道険しく、所々に鉄の鎖が懸けてあり、女どもは行かれない程である。しかし、女でもきじょうな方なので強いて連れ行つた。澤の流れが七つの滑滝となつているので、七滝と名づけたのだろう。不動尊の祀られる滝の処は最も上で二段の滝となつていた。高さは二丈余もあるようだった。大麥狭い木陰から流れ落ちる滝なのでまさに白糸

伊藤友信先生著 <Ver追記 奥山寺名勝他>

# 『山寺村風土略記』

をたらしたようであった。いつも霧が立ちこめていて、太陽の照す時などはその景色何にたとえたらいいのかわからない程美しい。滝のほとりは、白っぽい岩山が突き立ち、銀色に光り輝いていた。真つ先に、滝の涼しい音に気を取られ、気持ち静めるのに暫しの時間がかかった。セキレイが雌雄で滝のほとりを滝より涼しい声で囀りながら飛びたわむれる様子が何とも表現しようにない程興味をそそった。

七滝をいももろともにとびくればいもせの鳥のたわむれてなく

屏風岩は、高く東方にあつて屏風を立てようで、夕日の照らす時などはその景色とりわけ、すぐれて美しい。この岩は、最も有名である。

### ☆ 山寺七木・七石等

七木・七石というのは、昔より山寺村に言伝えられている。

これについては、何人かの村人に尋ねてみたが、同じ答がなかなか返つてこないで、その中でも定かなだけを書いてみる。

まず、七木は、今、たしかなのは僅か、南院の藤の樹、仙台街道の桂の樹の二本だけである。これは多くの方があげてくれた。又七石と言へるは、馬形の龜石(龜のかたち

の石を云う)・鸚鵡岩(先に記した)・立石(寺号、この石から名づけられた)・塔石(五重塔の形の岩なので、こう名づけられた)、宮崎には硯石(この岩の上に常に水をたたえ小さな池あるので名づけられた。この溜まり水を石墨草筆での如法経写経の硯水に使つたと伝わる)、地藏堂の赤石(その色大麥赤い)これが七石である。その外香の岩・姫岩・対面石・宝珠岩・琵琶石・立岩・くぐり岩等。

香の岩は、慈覚大師開山の砌、この岩の上で香を炊いたと云う事で名づけられたという。対面石は川原町の高橋の傍にあり、慈覚大師が始めてこの山寺村に来た時に、山王権現とこの岩の上で対面したことで、この名がついた。宝珠岩は山寺山の東に在つて、山号にこの岩の名がついた。琵琶岩は山寺山の内にあつて、その形が琵琶のようである。

このように山寺村風土略記を書いたのは、年を経て思い出のよりどころとするが為である。また、もれた事があるかもしれないが、これはただ山寺村のあらましを書いたものだから、読む方は心して読んでいただきたい。

時は明治二十年十月(神無月)初旬

山寺に滞在した時に書く

伊藤 友信



中性院境内修復前の御霊屋

中央の標記のバックの写真は宝珠山立石寺境内のお山の全景である。境内のお山には東の沢、中央に中の沢、左に西の沢筋がある。

1726年頃に出版された「山寺状」の口絵に立石寺最古の絵図が載っている。この五大堂の奥まった西の沢筋の広場に極楽院が建ちその境内に「よしあきおたまや」と記されている(現在、この広場は立入り禁止になっている)。この御霊屋は幾度かの移築を経て鞘堂で覆われ、現在中性院の前庭に建っている山形藩初代57万石藩主「最上義光公御霊屋」である。移築・修復されたにも関わらず、御霊屋・鞘堂は共々、鞘堂は朽ち、倒壊寸前の姿に、本堂も同様の姿になってきていた。

しかし、令和7年秋、立石寺さん、山寺地区『記念殿・御霊屋維持管理協力会』、馬形後藤大工さんとの連携で鞘堂だけを何とか修復することができ、鞘堂らしい姿に取り戻すことができました。

この機会を捉え、多くの郷土史研究家諸氏の調査・研究・報告を基に御霊屋の歴史をひも解き紹介してみたい。

※なぜ立石寺の境内に、御霊屋が西の沢の極楽院の境内に祀られたのか  
戦国時代の武将の多くは、数ヶ所に

供養施設を建立している。最上義光公も、長源寺、天龍山光禅寺、高野山奥の院五輪塔、立石寺境内中性院前広場に御霊屋を祀っている。

山寺の御霊屋の建立は、最上家・義光公と一相坊円海を介し立石寺への多大の寄進を行なった功績と考えられる。不滅の法灯の比山延暦寺への返還、立石寺根本中堂への義光公誕生の毘沙門天尊への御母堂祈願、法灯護持の田の寄進、百丈岩頂上納経堂修理、根本中堂の修理等々の立石寺の寄進厚意が背景にあつての御霊屋建立となつたのではないか。

絵図によると、立石寺の堂宇の殆どが『中の谷』に集中し建立されている。西の谷には、極楽院のみである。



## 最上義光公御霊屋

また、『御霊屋からの南西は、義光公の誕生の地が眺められる』ところとして『極楽院の敷地』検討され決まると推察されたのではないのか。その後この思いは維持されたのではないか。文化年間の宝珠山立石寺絵図での移築でも、この『眺めの良さ』が重視されてきたと推察できる。

※御霊屋の建立は、何年頃にされたのか

諸先輩方の調査・研究・報告で探ってみよう。現在最も科学的なのは、鞘堂・御霊屋の建材からサンプルを採取し、「放射性炭素年代測定」が行なう。

村山民俗学会が、平成22年7月、この測定を実施し報告書にまとめ公開している。

「放射性炭素年代測定」調査(永井氏)の結果はどうか。御霊屋の建材\*柱、\*舟肘木、\*板壁、\*厨子の扉等々のサンプルを採取して測定推定値は1536~1623と弾き出すことができた。義光公没年は1614であるから、『得られた放射性炭素年代測定数値と義光公没年との間には矛盾は生じない』という測定結果を得ている。

また、棟札によると、文政元年の(1818)「奉元旧地御遷座」との移築がある。この移築が文久元年の絵図(宝幢院敷地北への移築、現在の中性院広場前の北に当たる)。

\*天保2年の棟札には、大工と木挽きの名が記される貴重な資料がある。\*明治20年の棟札からは、屋根の修復

がなされたと読み取れる。さらに、\*明治34年から大正2年間に、中性院広場北側宝幢院(廃寺)敷地から現在の中性院前広場に移築されたところがある。\*昭和6年の棟札には鞘堂屋根が大破し修復され、現在の姿に近いものとなったと報告が読み取れる。



中性院境内修復前の御霊屋

※最後に、中性院前広場の義光公の御霊屋建立者は誰かの説は、研究者間では二説が現在話題になっている。

一つは、義光公の跡を継いだ最上家親でないかとする説。もう一つは最上義光四男山邊光茂(義忠)との説である。東北史学会員齋藤仁氏は、『建立者は義光息の最上家親でないのか。当主を差し置いて山邊光茂(義忠)が建立者とは考え難い。史料がなく詳細は確定し難い』と説いている。

御霊屋の本尊は地藏菩薩。祀牌は義光、家親、義光没時点の殉死者4名、義光四男の山野邊義忠、息義堅・義致、他1名の10基である。

以上、諸先輩の調査・研究報告を参考に最上義光公御霊屋の建立の歴史を素描してみた。

山寺地区山寺行啓記念殿・最上義光公御霊屋維持・管理協力会の喫緊の課題は、御霊屋御堂本体・10基の祀位牌等の修復・管理である。それには、多くの方々からの支援が必要である。

最上三十三観音の「午歳御縁年観音まつり」に合わせて令和八年五月一日から七月三十一日まで、ご本尊の特別御開帳が行われる。是非御参拝を。



## 今味わう、先哲の言葉

幸せを感じる

4つのこと

- 立石寺住職 清原 正田
- 少し前に出版された「利他のすすめ」という本の中で、「人が幸せを感じる4つのこと」が紹介されています。
- 1、人に愛されること
  - 2、人に褒められること
  - 3、人の役にたつこと
  - 4、人に必要とされることです。
- これは、自分が幸せを感じると同時に、回りの全ての人々が、幸せと感ずることです。

## 振興会

◆令和7年◆

- 〔4月〕 山寺地区振興会総会
- 〔9月〕 山寺地区敬老会
- 〔10月〕 市長を囲む山寺の集いⅡ市政懇談会Ⅱ
- 〔月1回〕 振興会役員定例会

振興会だより発行

### ●やまでら館と共催

- 〔11月〕 追分つじ苑除草作業を、まちづくり推進委員と振興会役員で実施。随時除草剤散布
- 〔1月〕 新春初顔合わせのつどい
- 〔9月〕 救命処置講座
- 〔10月〕 山寺地区文化祭

### ◎体育振興会

- 〔1月〕 ソフトバレー・卓球大会
- 〔5月〕 ソフトボール・ソフトバレー大会
- 〔6月〕 地区さわやか軽スポーツ教室 (パークゴルフ大会)
- 〔8月〕 町内対抗レクリエーション大会
- 〔11月〕 秋の軽スポーツ教室
- 〔7月・10月〕 第4部ブロックさわやか軽スポーツ教室 (グラウンドゴルフ大会) ※10月は中止

### ◎社会福祉協議会

- 〔10月〕 赤い羽根・歳末たすけあい運動
- 〔年3回〕 山寺地区社協全体会議
- 〔年3回〕 山寺地区福祉協力員研修会
- 〔月1回〕 社協事務局会
- 〔8月・11月〕 3B体操



〈振興会総会〉



〈百歳体操〉



〈敬老会〉

◆令和7年度振興会役員(敬称略)

- 会長 佐藤正紀 (中地藏)
- 副会長 布施文弘 (中地藏)
- 自治推進委員長(兼)副会長 遠藤定治 (川原町)
- 会計(兼)副会長 武田栄作 (所部)

役員

- 小笠原篤・布施和敏 (地藏堂)
- 武田和彦・布施正志 (宮崎)
- 川邊信治・原田浩一 (芦沢)
- 堀川和義・小野美典 (南院)
- 安藤恵一・佐藤勇一 (馬形)
- 武田久登志 (所部)
- 後藤俊弥・後藤国昭 (千手院)
- 事務局 小幡亨 (やまでら館)
- 監事 滝口金石エ門 (芦沢)
- 安藤章吾 (馬形)

### ◆感謝状

- ・自治推進委員退任感謝状
- 成山佳明 (地藏堂)
- 布施修 (宮崎)
- 川邊信治 (芦沢)
- 布施春夫 (川原町)
- 安藤章吾 (馬形)
- 毛利今男 (所部)
- 佐々木勝則 (千手院)

### ◆民生委員児童委員

- (令和7年12月〜3年間)
- (再任) 柏倉健一 (川原町・南院)
- 滝口佐知子 (芦沢)
- 武田治美 (千手院)
- 高見佳澄 (馬形・主任児童委員)
- 増子友美 (南院・主任児童委員)
- 布施秀雄 (中地藏・地蔵堂・宮崎)
- (新任) 遠藤正敏 (馬形)
- 武田啓 (所部)
- 森谷盛克 (中地藏・地蔵堂・宮崎)
- (退任) 佐藤勇一 (馬形)
- 増子伸一 (所部)

### ◆保護司

- (令和7年12月〜)
- 遠藤正明 (南院)

## やまでら館

令和7年

- 〔1月〕 新春初顔合わせのつどい
- 〔1月、2月、3月、7月、12月〕 手芸講座 (編み物・パッチワーク・ミシン・紙クラフト)
- 〔5月〕 10月、11月 ヨガ教室
- 〔8月、9月、11月〕 子ども体験教室 (パン作り・工作・クッキー作り)
- 〔8月、12月〕 親子リトミック
- 〔9月〕 救命処置講座
- 〔10月〕 奥山寺遊仙峡トレッキング
- 〔10月〕 紅葉川溪谷トレッキング
- 〔11月、2月〕 山寺健康元氣講座
- (タキミカ体操・3B体操)



〈新春初顔合わせのつどい〉



〈工作教室〉



〈ヨガ教室〉



〈親子リトミック〉



〈山寺地区文化祭〉



〈山寺健康元氣講座〉

佐藤正紀さん(中地藏)が書いた山寺の風景画2作品をやまでら館(コミセン)に展示しています。



布施良政 ご夫妻  
營 <中地藏>

おめでと  
う  
金婚  
さん

令和7年生まれ

お誕生  
おめでとう!!



<地藏堂>  
遠藤瑞樹氏 長男  
朔玖 さん

30周年記念コンサート  
清らかな歌声、  
大師の里「山寺」に響く  
山寺女声合唱団「ふうが」

女声合唱団「ふうが」30周年記念コンサートが3月30日(日)山形市中央公民館ホールに於て、満員のお客様をお迎えし、成功裏に終了致しました。今回は、男声合唱団「大和」の皆さんと子ども応援団(孫ちゃん)にも出演していただき、また、出演者全員でミュージカルナンバーにも挑戦しました。客席より大きな拍手をいただき感動致しました。これも指揮 川邊さえ子先生のご指導の賜物と、山寺地区振興会の皆様各町内会の皆様、関係者の皆様のご声援とご理解のお陰と団員一同深く感謝申し上げます。私達はコンサートの喜びを胸にこれからも練習に励んでまいります。本当にありがとうございます。

団長 柏倉 恵子

三情報

耳よりな話

☆山形大学が立石寺で10万点に上る江戸時代の木札が見つかったと発表。大半は故人の追善供養に用いる卒塔婆や経文を書き写した「こけら経」で立石寺の庶民信仰を解明する上で重要な手がかりになるとしている。

☆山形市立商業高の3年生が、山寺の魅力アップに向けた土産店の既存商品販売促進策に取り組んだ。菓子の形状と山寺土産であることをわかりやすく伝えようと工夫した。後日、ふもとや本店で販売実習を行い観光客に、「私たちが考えました」「お一ついかがですか」と積極的に売り込んだ。

今年度は山形市内の高校が山寺の歴史と文化を学びながら、SNSを駆使したり、多方面からPRしようと呼びかけていたのが多くみられた。

☆山寺中生徒会がサニーヒル山寺へ車椅子を寄贈。山寺小中学生全員と地区の皆様からのアルミ缶回収に協力いただいた賜物。

☆山寺小中学校で「平和の音色平和コンサートin山寺」が開催。原子爆弾で傷ついた被爆ピアノが奏でる一つ一つの音色に感動の嵐。

表彰状

- ・青少年の善行表彰  
山寺小児童会・山寺中生徒会
- ・第19回やまがた未来賞  
山寺小中学校
- ・第80回県総合美術展  
洋画入選「開山堂残照」佐藤 正紀

令和七年物故者  
謹んでお悔やみ  
申し上げます

- <地藏堂> 布施 一郎殿 矢萩 政 殿
- <宮崎> 富樫 まつ殿 布施 文子殿
- <芦沢> 柏倉 りさ殿 原田 和夫殿
- 原田 玉子殿 堀川 良子殿
- <川原町> 水野 すや殿 結城 典子殿
- 清原 浄田殿
- <南院> 渡邊 三蔵殿
- <馬形> 小笠原よし子殿 遠藤久美子殿
- 安藤ヒデ子殿
- <所部> 増子 美 殿 武田 哲子殿
- 武田フサ子殿
- <千手院> 後藤 キヨ殿 後藤 成雄殿



中1・2 山形中央高校訪問

☆山形中央高生とのゲーム  
考案会議。タイトルは「山  
寺タイムライン」でさらに「山  
寺を楽しく」!!



小1・2 地域探検

☆小学1・2年生が町探検を行い、見学、質問しながら学習し「山寺の町博士」に近づいたよ!!



## 山寺小・中の取組み

# 大好きな山寺!!

☆中学校3年生が修学旅行で学んだことを取り入れながら、これからの山寺地区をより良くするための「山寺未来会議」を開催。すばらしい内容の提案を実現できるように前進あるのみ!



中3年 山寺未来会議

1月27日岡山県倉敷青年会議所の皆様に、冬の山寺の案内ガイドに挑戦した。  
長靴に縄を巻き、山寺の見どころを丁寧に案内することができた。倉敷青年会議所の理事長から「子どもたちが、一生懸命考えてくれて、山寺の魅力が丁



小3・4 観光ガイド

☆小学3・4年生がぎざはし会の花輪裕宣さんから山寺ガイドを学ぶため、宝珠山立石寺を上った。その学習の成果を発揮しようとして、寧に伝わって、楽しい思い出ができました。」と感謝の言葉を頂いた。子どもたちは、念願の案内ガイドができ、とても満足していた。

☆「山寺さ 来てけらっしゅい」と、仙台でPRするため、サンモール一番町商店街にてパンフレットを配布。動画撮影、編集にも挑戦し、QRコードから山寺の見どころを映像で見ることができ



小5・6 仙台市PR活動



「山寺ふるさと便り」宝珠のしづく(歴史を伝える大師の里心と力を合わせ 未来に誇れるまちづくり)30号をお届けいたします。山寺小中学校の児童・生徒が60数余年に亘って取組んできた「山寺物語」の演技・山寺中学校「磬司太鼓」の演奏が「やまがた未来賞(副賞付)」の大きな表彰を受けた。山寺地区の皆さん、お子さんを褒めてください。先生方の篤い指導のお蔭で、児童・生徒が確かに、大きく、たくましく育っています。おめでとう。山寺地区挙げてお祝いしましょう。

### 編集後記

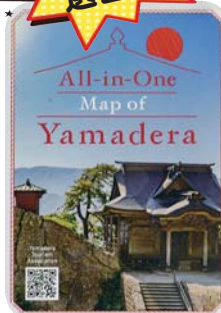
#### ★編集委員

- 新関 孝夫 ○矢萩 昭夫
- 後藤 久 石川 進一
- 小幡 亨 遠藤まき子



## 『行くべき世界の旅行先』

※米「ナショナルジオグラフィック」※ 国内唯一



2026年に行くべき世界の旅行先で山形県が選出された。山寺も忘れられない旅先として紹介している。また、ジャパントイムズが世界に発信するに値する日本の自治体として山形市を選定。山寺としても英語のガイドマップをリニューアルし、受け入れ体制を整えている。